

長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、地域音楽コーディネーター、市民団体『ことはじめ』代表、東山手「地球館」館長 青柳 智子様より『いろんなコトを、長崎から』と題し寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



ながさき経済web画面

長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。



いろんなコトを、長崎から

地域音楽コーディネーター

市民団体『ことはじめ』代表

東山手「地球館」館長 青柳 智子



幼少期のピアノレッスン風景



高校時代。友人と逆さピアノに挑戦！

はじめに

はじめまして、青柳智子と申します。「やぎちゃん」と覚えていただければ幸いです。この度、貴重なご縁により寄稿させていただくことになりました。今回は自分自身と長崎での活動についてご紹介させていただきますが、なんだか壮大なお役目をいただいてしまつて恐縮です。まだまだ途中経過の稚拙な文章ですが、好きな音楽を聴きながら、またお茶やお酒の一杯のお付き合いに読んでいただけるものを目指して執筆しています。どうぞよろしくお願いいたします。



Profile

地域音楽コーディネーター

市民団体『ことはじめ』代表

東山手「地球館」館長 青柳 智子

1997年生まれ、長崎市出身。活水高等学校普通科音楽コースを卒業後、青山学院大学総合文化政策学部に入學。同大卒業後、長崎市にUターンして活水女子大学音楽学部研究生(バイオリン専攻)となる。この研究生時代に「長崎の魅力的な街を活かしながら、地域のアーティストが様々な芸術活動を広げて、表現することが地域に愛されたらもっと楽しい長崎になるのでは」と考え、市民団体『ことはじめ』を発足。様々な芸術イベントを企画、実施し、現在も同代表として活動を続ける。2022年度には、長崎伝習塾「地域芸術を愛でる塾」の塾長に就任。また、2022年10月から国際交流拠点である長崎市指定文化財の東山手「地球館」の館長を務め、文化を通じた多文化理解・国際交流に邁進している。

長崎から東京へ 大学での4年間 ——音楽が好き！——

私の生まれは実は福岡です。でも2歳頃には長崎にいて高校卒業までずっと長崎で暮らしていました。3歳から母に連れられてヤマハ音楽教室に通い始めました。ピアノの練習は嫌いだったものの、音楽が大好きで歌ってばかりいる幼少期。高校もやっぱり好きな音楽を学びたいと活水高等学校の音楽コースへ進学しました。ピアノを専攻しながら、副科



1.大学時代／2.大学チャペルのパイプオルガンを弾く／3.大学の同級生と／4.大学聖歌隊／5.第1回「ことはじめ」／6.オンライン居留地まつり

の音楽や、ソルフェージュ・音楽理論の授業も楽しくて、音楽コースのみならず大好きな音楽を分かち合い、たまに変なこともする(?)、幸せて充実した3年間を過ごしました。

大学は東京へ。これは当時相当悩んでの選択だったのですが、自分の演奏技術に自信がなかったこと、当時放送部に所属していた影響でメディア(伝えること)への興味があつたこと、演奏会は弾く側より作る側にやりがいを感じることを理由に、音楽大学ではなく、青山学院大学総合文化政策学部という「文化」を多角的に研究できる分野へ進学しました。

ただ相変わらず大学時代も、音楽の魅力に引き寄せられる私。「音楽マネジメント」の实地研究を履修したり、他学部の音楽関連の授業も聴講したりしながら、サークルは大学聖歌隊に所属、大学チャペルのパイプオルガンを弾かせていただいたり、アルバイトも3年間音楽事務所で音楽企画に携わるお仕事をさせていただきました。

東京は本当に多様な街で、なんでもすぐに手に入って、いろいろな人がいて、様々なあり方が認められている、というかたぶん基本的にみんな他人に無関心で(自分のことを大事にしている)、だから案外みんな優しい、尊敬しあっている、そんな印象がよみがえってくる街です。全てが刺激的で、発見的で無意識に自分を奮い立たせられる大学時代。たくさん経験と大切な出会いも多く与えられました。今でも、それぞれ別の場所にありながらたまに会ったり近況を報告し合うのが楽しみの一つです。

東京から長崎へ 一般市民としての4年間 ——長崎が好き！——

とはいえ、東京での4年間ずっと心では故郷「長崎」を大切に思っていました。私が長崎出身だと話すと、「ちゃんばん!」「カステラ!」「修学旅行で行きました!」などいつも嬉しい反応をいただくものです。そし



7.Music ナガサキ駅西口マルシェ／8.かうひいと音楽の昼下がり／9.スナックde踊らナイト／10.つきまち横丁DJコーディネート／11.12.アーツ&スナックながさきフェス運動「キッサカバ」

て音楽と同じくらいに語ってしまう長崎の話題「1年中お祭りがありまして、醤油はチヨココーしかない」と思っていて、8月9日は平和集会の登校日なんですよ…」などなど、勝手に長崎親善大使活動のおかげで友人もたびたび長崎を訪れてくれています。

そんなこんなで、東京で就職する気にはなれずうだうだしていたら、母に「一旦長崎に帰ってきたら？」と何気なく言われました。それに妙に納得してしまい大学卒業後Uターン。せっかくなのでパイプオルガンの研究をもう少し深めるべく、活水女子大学音楽学部の研究生として学び始めました。

しかし、その時の2020年は新型コロナウイルスが猛威を振るっていた時期です。観光客が来なくなつて、閑散となった長崎の街を歩いてみると改めて気づく異国情緒あふれる素敵な景色。美味しい食べ物。時間の流れがどこかゆっくりしていて自然豊かで癒される空気…。でも、なんかちよつ

と物足りなくて。東京時代よく目にしていた芸術や音楽が恋しいほどに、長崎の街に芸術を感じられない…。そんな風に思っていた矢先、「ながさき若者会議」の募集が目に残りました。チラシにあった「みんなで踏み出す、はじめの一步」という言葉に、なんかワクワクする！そう思っ

て応募しました。そこから、自分の想いに背中を押してくださるたくさんの方々に支えられて『ことはじめ』という団体を立ち上げました。「長崎からコトを、ハジメていく。」が当時の合言葉で、長崎のいろんなアーティストが長崎のいろんな場所で表現活動ができる環境を創る。長崎の人が気軽に芸術を楽しむ価値を尊ぶ文化を創る。0が1に、1が2に、3にと広がっていきますように。そんな想いで迎えた2021年1月23日。初めての『こ



17



15 13



18



16 14



13.武雄☆駅スポ/14.東山手「地球館」外観/15.「地球館」前館長 牛嶋さん(右)、前マネージャー 高梨さん(左)と
/16.「地球館」のみなさんと/17.花火鑑賞会パーティ at
「地球館」/18.「地球館」ワールドフーズレストラン

ての中10月に走り始めて、約3か月間という準備期間。直前まで場所が決まらず、コロナの緊急事態宣言が出る中で、本当に苦しみながら何とか開催にこぎつけられた第1回目の『ことはじめ』でした。

その後約1年間、『ことはじめ』や私の想いが自分だけの行動にならないように、地域の方々と一緒に過ごす時間を大切に過ごしました。特に長崎居留地の皆様には、現在にわたって多くの励ましとチャンスを与えていただき心から感謝しています。個人としても「地域音楽コーディネーター」の資格を取り、すべての人に音楽の楽しさと豊かさを届けるために地域・行政・企業・アーティストを繋ぐ働きを始めました。

『ことはじめ』の企画では、音楽や芸術をコンサートホールやライブハウス以外のところで展開しています。それは、できれば音楽や芸術を“かきこま”てではなく、生活の一部として楽しんでもほしいと考えているからです。「ちょっと疲れた

時、お仕事帰りに美味しいものを食べるように、入浴剤入りの温かいお風呂に入るように、ちよつと良いご褒美を自分に買ってあげるように。それと同じように芸術を楽しみ、踏み込んで言えば同じ感覚で芸術という価値に気持ちよくお金を使つて欲しい…。生々しい話になりましたが、私は真剣にそういう文化を長崎で、みんなで創れたらなと願っています。

お陰様で、これまでの3年間で「コワーキングスペース」(洋館)「スナック」(カフェ)「駅前」など、様々な場所に活動が広がり、アーティストの方々と繋がりや同じ想いを持ち二人三脚でことはじめに取り組んでくださる方々にも出会うことが出来ました。合言葉を「いろんなコトを、長崎から」に変え、今後は法人化を目標にしています。



23



21 19



24



22 20



19.26周年Anniversary・ワールドフーズレストラン／20. かうひいと音楽の昼下がり／21.居留地で楽しむ長崎のお茶／22.ボードゲーム会／23.24Aperitif・アペリティフ（フランス語。「食前酒」の意）

長崎から世界へ

これからの4年間？

——人が好き！

長崎に帰ってきて、たくさんの方々
と一緒させていただく中で、私は
人が好きなのだなと気がつきました。
それは温かみや、優しさはもちろん、
楽しい、哀しいという心の動きとそれ
に呼応して生まれる身体表現や言葉
の変化に1人として同じものはない
ことに、愛おしいと感じるからです。

2020年10月から居留地の先
輩方のご縁で、東山手「地球館」の運
営を引き継ぎ、館長を務めています。
国際交流の拠点でありながら、
地域・観光の方にもお越しいただ
きやすいように1階を「cafe
slow」としてオープンしました。
このcafeの名前は「坂slope」
と「ゆつくりslow」を掛け合わせ
て名付けています。国籍を問わず、
すべての方の人生の上り坂、下り坂
の途中で、ちよつとゆつくりする時間
にもなる地球館であれたらな、そん

な想いを込めて。

「国際交流」という言葉を聞いて
どんなことを思い浮かべるでしょう
か。英語が話せないといけない？
〇〇国の人は危ない？時間にルー
ズ？動物を食べない？その答えは
全て「人それぞれ」です。どんな国
の人でも、性別、年齢、職業、育っ
てきた環境で全く異なるもの。その
違いをお互いに知ったり、「その人」
として受け止めて関係を築いてい
くこと。これは日本国内でも、小さ
な地域のなかでも大切なことかもし
れません。私自身も現在進行形で勉
強中です。

多文化理解のきっかけとして本来
取り組んでいた「文化」を通じた企
画にも力を入れています。例えば、
コンサート、お茶会、ボードゲーム会
など。人との関係を築く上で、その
人を知る手掛かりになればと、楽し
みつつ季節に合わせて準備している
ものです。その時々、お子様から
地域の方、遠方の方にもご来館いた
だき、一歩ずつ多文化理解・多文化



ながさき若者会議

共生に進んでいるのではと感じています。

また、2023年に行ったクラウドファンディングでは、70人以上の方々から多額のご支援をいただき、交流推進の大きな支えとなつていきます。お陰様で、最近は「Aperitif - アペリティフ」という飲食×音楽×交流のイベントを定期開催しており、良い交流の場が創られています！

おわりに

私の活動の根源である芸術（Art）の語源は、ラテン語の「ars^{アルス}」と、ギリシャ語の「techné^{テクネ}」に由来しています。意味は「技術、技能、工芸、手仕事」。つまり人が生きるうえで必要不可欠な生活に密着したものです。加えて、私はArtを人々が生きる証が形となつて表現されたものと理解しています。大きく言えば、いま私たちが現代社会を生きている一人一人が、息をし、食事をし、はたらき、喜んだり、怒ったり、哀し

んだり、楽しんだりする全ての営みが芸術だと言えるのです。

私はいま27歳です。人生、また世間の多くの方から見れば「若い」と言つていただける時期かと思いますが、ですが、個人的にはもう「子供」ではないし、大人であることをようやく受け入れつつ、挑戦をためらうことで老いも感じたり、大学生や高校生の輝きに目がくらみそうになる……そんな歳です。

生物学者の福岡伸一^{ふくおかしんいち}さんの名著に「動的平衡」という言葉があります。生命は細胞レベルで自らを壊しつつ、創り変えることで保たれる「変わらないために、変わり続ける」ということ。私がとても大切にしている言葉です。

生きていると時にぐぬぬ……と言いたくなる瞬間もありますが、これからも常に新しく変わり続けながら人生という芸術を、音楽を楽しんでいきたいと思っています。